

結んでひらいて

75

2013/October



環境



緑化・農



地域づくり



子ども



癒し・やすらぎ



コモンスペース・交流

一般財団法人世田谷トラスまちづくりでは、まちづくり活動に取り組むグループやこれから活動を始めるグループ、まちづくり活動に関心のある方々等を対象に、様々なイベントや情報提供等を行い、まちづくり活動を支援しています。昨年度に行なった事業のいくつかを以下でご紹介いたします。

平成24年度まちづくり活動はじめて交流会 (ウェルカム懇談会)

平成24年6月26日(火) 三菜しゅれなあと

毎年6月下旬に、公益財団法人世田谷まちづくりファンドが初めて助成を受けるグループや、これからまちづくり活動を始めたい人々を対象に交流会を開催しています。これは、今後の活動にすむべく、地域の課題解決のヒントを得ることやグループづくりのネットワーク形成を目的とし、活動を始めてから数年経ったグループも、アドバイザーも一緒に参加しています。

平成24年度は、活発な者での課題について事前にフェイスブックにて集まり、A「資金」、B「人集め」、C「場所」、D「経費」の4つのテーマに分れて、問題点の共有と意見交換を行いました。活動を始めたばかりのグループからは意見交換や見聞の出来る方々、先駆者グループからは経験豊富なアドバイスをもらい、活発な質疑応答の場となりました。

平成24年度世田谷まちづくり交流会

平成24年10月27日(土) 三菜しゅれなあと

まちづくり活動に関心がある人、まちづくり活動を進めている人たちの「出会い」と「学び」の場として、毎年10月下旬に開催しています。

「社会の課題とまちづくり」の今回は、第1日に、西田分所でカフェ「クルマドコーヒー」を経営する影山明恵さんをお迎えし、「西田分所が乳児になること」をテーマに、カフェから人と、人とまちがつながる状況をつくり出している取り組みと、そこから生まれる地域づくりのヒントについてお話を伺いました。

第2日では、ワールドカフェ形式で、「世田谷に人と人、人とまちがつながるこんな場所があったらいいな」をテーマにワークショップを開催しました。今ある場所、望んでいる場所の新たな利用方法や魅力的な場所づくりのアイデアが次々に生まれ、世田谷のまちに求められるニーズを発見する機会となりました。

20th ファンド20周年記念イベント

世田谷まちづくりファンド 平成24年12月1日(土)2日(日) キャロットタワー

世田谷まちづくりファンドが設立から20周年を迎えた昨年、記念イベント「ファンドがひらいた世田谷のまちづくり20年とこれから」を開催しました。このイベントには、過去の助成団体やファンド支援者など多くの方々が参加し、当日のプログラム運営までを行いました。

初日の第1部「ファンド20年を振り返ろう!」では、これまでの区長まちづくりやファンドの成果を確認しました。また、第2日目の「若者ノカタリ」では、まちで活躍する若者たちを招き、地域との関わりや生き方について活発な意見交換を行いました。

2日目の「ファンドでできるコーディネート!」を語るうと、これからの世田谷のまちづくりの将来について語り合いました。プログラムの特長となる「みんなで選ぼう!」があったらいいな、こんな世田谷プロジェクト」では、一般公募した理想の世田谷のまちの実現に向けたアイデアに、来場者みんなが投稿し、選ばれた優秀作品の表彰を行いました。

2日間で延べ約300人が参加し、今後の区長まちづくりや、それを支援するまちづくりファンドのあり方について、様々な意見が生まれ、引き続き、市民に関わった場での話し合いの必要性が、会場全体で共有されました。

20周年記念冊子のご案内

これまでのファンドの20年と当日イベントの様子をまとめた記念冊子を作成しました。下記URLより、ご覧いただけます。ご希望の方は、お電話でも申し込みます。(1冊500円)

制作ホームページ「ファンド助成事業のこれまでの成果」
<http://www.seitagofund.or.jp/seitaku/> 20
 ファンドがひらいた世田谷のまちづくり 20年とこれから(発行)のPDFをご覧ください。

平成25年度まちづくりイベントのご案内

■世田谷まちづくり交流会
 共済を主催、資金を得る方法「クラウドファンディング」の仕組みや、それを地域で活用する方策についてご講演します。
 平成25年10月26日

■第2回世田谷まちづくりファンド助成最終発表会
 平成25年5月下旬～6月上旬予定 三菜しゅれなあと
 ※各イベントの詳細については、財団法人世田谷ホームページや区報等でご案内させていただきますので、そちらをご参照ください。

平成25年5月25日(土)は「はじめの一歩部門」の書類審査と「10代まちづくり部門」「災害対策・復興まちづくり部門」の公開審査会、「まちを元気にする拠点づくり部門」の予備審査会(公開)が、6月1日(土)には「まちづくり活動部」の公開審査会が開催されました。応募総数51グループ、44グループへの助成が決定し、活動開始中です。

■第2回世田谷まちづくりファンド助成グループの紹介

部門	グループ名	テーマ	助成決定額(万円)	
はじめの一歩部門	LAVALAND(ラヴァンデュラ)	プロマテグリーのハンドリットメントを通じて、世田谷区内の高齢者や障がい者施設で、利用者やスタッフのストレスを減らすことに取り組む。	5.0	
	TURN・D・デザイン	世田谷「ジョーリングマップ」の作成	5.0	
	KADAN23(カダンニジュウサン)	緑と花の館を生かす企画、まちづくり	5.0	
	在野舎クラブ(アリンコヤクラブ)	地域共創の「まち」を築き、まちの歴史を語り継ぐ活動	5.0	
	街の本をさがすものづくり会	私達の街を歩いてみると本をばらばらと、まちのつくりの素材について学ぶ。	5.0	
	0円マーケット(くまのひびき)	地域の需要品を地域でシェアし、エコ・コミュニティを拡げよう!	5.0	
	コモンズ・ファーム	農具復興支援の地域交流拠点「ネットワーク」	5.0	
	une petite maison(ヌヌ・プティット・メゾン)	暮らしや遊びを通して考える活動を通じたコミュニティづくり	5.0	
	グループ de アンボ づくり	メンバーの個性から立ち上がる人たちの交流	5.0	
	MAPサポートせただが	読書やまち歩きを通して、自分自身やまちをよりよく知る「グループ」サポートマップの作成のための「グループ」開催	5.0	
まちづくり活動部門	食でつながる輪・和・話	食で地域コミュニティを活性化、世代間の交流づくり	13.7	
	世田谷住宅(マンション)を中心としたまちづくり活動へのつながり	善住住宅(マンション)を中心としたまちづくり活動へのつながり	13.7	
	品川用水の復元研究会	世田谷の「品川用水」に築きあげた風景をマップする	16.3	
	神奈川県立日本防災文化世田谷支部	高山動物園(品川用水)周辺自然環境の防災計画作成	12.1	
	ハードルファイブ	地域の協力、共創力を活かすために、災害・犯罪等の危機部会を「狭う」作り出し、繋ぎを	9.8	
	上町コミュニティセンター運営委員会	地域のつながりを通して、まちづくり活動への参加を促す	19.0	
	ダイタ表イチャ	地域のつながりを通して、まちづくり活動への参加を促す	19.0	
	明治前期周辺地区街づくり協議会	ごごごおとよし、まちづくり活動への参加を促す	23.1	
	世田谷読書専任グループ「ひびき」	読書が、街のつながりやコミュニティの形成を促す	23.6	
	世田谷各年代委員会	まちづくり活動への参加を促す	23.6	
10代まちづくり部門	カタクリの会	世田谷区内の有志が中心となり、5月期に「無料生花ワークショップ」を行い、緑と花のつながりを通して、自然を愛でる心を広げます	14.0	
	特定非営利活動法人 国境なき楽園	けやいぬいぬい歌「歌」	14.0	
	木の木としての心もち	高齢者施設のお年寄りや大学生などとの交流	7.0	
	グリーンラインお茶派	小田線と都立図書館は緑とつながる緑化プロジェクトに向けて、多くの市民や子どもと緑化プロジェクトの推進を促す	16.6	
	旧津都を保存・活用する会	地域の歴史に、かき足すまちづくり活動の推進を促す	16.3	
	社会に活躍の場	社会に活躍の場を創出するための活動を通じたまちづくり	10.1	
	よみかせ世田谷エリアの会	読書者の読書の楽しみを共有する	15.2	
	世田谷各区のライフスタイルを考える会	グリーンエネルギー利用と持続可能な都市型ライフスタイルの実現	19.3	
	プランニンググループ	花見通るまちづくり	13.1	
	子どもでつながる「た〜く〜ぶ	共に活動し、学び合える子育て世代のネットワークづくり	16.7	
まちづくり活動部門	ランドランニング世田谷 寒沢会	人と自然、地域とのつながりやまちづくり活動の推進を促す	25.9	
	2日目	子どもでつながる「た〜く〜ぶ	共に活動し、学び合える子育て世代のネットワークづくり	12.3
	世田谷環境学習会	身近な環境を知り、学び、伝えたい。世田谷環境学習会の発信活動	12.9	
	世田谷・Lienの会	子ども、親女性、高齢者が集まる多世代、コミュニティづくり	22.7	
	3日目	NPO法人 玉川にエコタウンをつくる会	二子川沿いの自然環境を保全し、まちづくり活動の推進を促す	22.7
	千歳小おやじの会	千歳小中学校の学びの場を中心として、校舎学習を通じて、子どもたちの健全な育成や地域活性化に向けて、資財提供を通じて、まちづくり活動の推進を促す	23.5	
	かすやま地域の力を集める会	あかりワークショップ & 東日本大震災復興支援センターによる「避難生活体験ワークショップ」の開催	18.4	
	まちを元気にする拠点づくり部門(予備審査)	パーマカルチャーガーデン世田谷まきびと	10.0	
	せたがやカフェ	企業を元気にする活動(せたがやカフェ・リアル)開催を通じて、まちづくり活動の推進を促す	10.0	
	特定非営利活動法人 5・ら	子どもを中心とした地域の相互交流拠点をつくる	10.0	
災害対策・復興まちづくり部門	遊びと勉強	学校を拠点とした子どもと保護者の復興まちづくり活動	6.0	
	福島の子どもたちと、家族の絆・愛を伝える	福島の子どもたちと、家族の絆・愛を伝える	79.7	
	こまご方 陣 with 岡さんのいTOMO	東日本震災前と世田谷区北沢における地域コミュニティ活性化	79.7	
	CRAFTMAN世田谷	東日本震災前と世田谷区北沢における地域コミュニティ活性化	79.7	
	キララズフックン	被災地「ワークショップ」による、被災地と世田谷区北沢における地域コミュニティ活性化	10.0	
	10代まちづくり部門	平成24年度新設の「10代まちづくり部門」の助成グループです。公開審査会当日は、大人たちから「おもしろい」「活動が楽しい」「思いやりが伝わった」と好評でした。活動で成長した子どもたちは、お母さんや、お友達やお父さんと一緒に学びました。お母さんやお父さんやお友達と一緒に学びました。お母さんやお父さんやお友達と一緒に学びました。		

2014

「世田谷まちづくりファンド」から、昨年度助成を受けた、まちづくりグループの1年間の活動成果や今後の活動方針などをお伝えします。

環境

世田谷区民のライフスタイルを考える会

グリーンエネルギーによる持続可能なまちづくり

これまでの助成金の成果として「世田谷式ソーラーパネルの製作と設置、安心宅配による緑豊かなまちの暮らしとエネルギー付加価値、世田谷大学発案の提案、4子とまたまたといきものなどの公開作り、以上4つのテーマについて活動を始めています。
<http://fishiyama.arch.waseda.ac.jp/www/jwp/setagayalife.html>



トラランション世田谷 茶沢会

人と自然、地域とのつながりを大事にした持続可能なまちづくり。

イギリス発祥のトラランションタウン運動。世田谷では、食とエネルギーの地産地消を目指し、手づくり太陽光パネルの製作WSや料理活用、エネルギーのシンプンタウン、地域マルシェを開催、住居団ともつながって地域産物販売所など新たな活動の生まれています。
<http://sites.google.com/site/tsetagaya/>



世田谷環境学習会

身近な環境を知り、学び、伝えあい、世田谷に環境保全の輪を広げる

5つの研究会(食・緑・食と農・まち・地域環境)と2つのプロジェクト(エコアポロ探検・防災支援)、環境講座開催の活動を通して、地域の根幹の自然体学習や区内の小・学生の校外学習を支援して、地域環境を大切にすることを仲間を増やしています。



NPO法人 五川にエコタウンをつくる会

緑化による地域の保全と再生及びつづくり

緑化イベントとして、二子玉川緑化交流広場(パークリーフ)のコンコースにプランターでの緑化を提案し、占坪許可取得には苦戦しましたが実現させました。五川緑化講座のワークショップを、昨年にも続き2回開催し1000のアイデアを生みだすイベントも作成しました。
<http://ecotama.org/>



野川(世田谷区)の多自然川づくりを考える連絡会

野川のみ多自然川について考える

昨年度の工事から、野川でも多自然川づくりの工事が取り入れられ、関係者との意見交換や、工事の進捗も報告し共有しました。地域での自然体交流も実施しました。保全作業や観察会など地域の人々の参加も増え、今後もPRを続け、参加者の拡大を図りたい。



環境

緑化・農

アート・イン・ファーム世田谷実行委員会

「芸術」の生産者拠点としての基盤「アートでなく地域と農

世田谷区民を代表者として、2012年10/6〜14「ART in FARM PART 2」を野井の木村記念公園で、「収穫を食へる場、私達が知らない“写”を収穫するアート展」として開催した。都市農地の意味と可能性を伝えたいとあった。
<http://artinfarm.blogspot.jp/>



フレンドリーグループ

花と健康増進

荒地だった場所に花壇を作り1年中花が楽しめる地域の憩いの空間を作った。花づくりを通じて地域性と健康増進を図っている。栽培した花を中心に「健康食セミナー」を行なった健康増進をさらに進めています。



東京グリーンプロジェクト

子どもも無農薬野菜を!

守山小学校で大規模ながら「おそくづくり教室」や学園園(子どもゆめ広場)で「卵の収穫等、児童、保護者、地域が一体となった楽しい活動ができた。リーダーとして習得したスキルが活かされ、今後もグループと連携しながら活動を続けていきたい。
<http://cinderellaaproject.jp/>



フラワーランド園芸ミニディ

高齢者・障がい者・子ども達が花づくりに参加することにより、元気に生き生きと暮らす姿を“花”の萌発

高齢者施設訪問や障がい児施設、小学校などへ、利用者の小・小学生、地域住民とともに、花造りや植物の精神管理を行い、住み込み環境づくりと花づくりに通じた幅広い層のみなさんの交流を図っている。今後も活動の輪を広げるとともに、会の自立に取り組んでいく。
<http://www.42.tok2.com/home/famp/>



公益信託 世田谷まちづくりファンド

「世田谷まちづくりファンド」は、区民の創意工夫にあふれたまちづくりを促進し、だれもが安心して暮らせる、人間性豊かで魅力的なまちを創造することを目的に設立された基金です。地域の住みよい環境づくりを目指す様々な区民主体のまちづくり活動に対して毎年助成を行なっています。

- 世田谷区民の歩み 野井
- まちづくり活動 野井
- まちづくり活動 野井
- まちづくり活動 野井
- まちづくり活動 野井
- まちづくり活動 野井

地域づくり

(特非)日本防災士会世田谷支部

一般市民を対象とした防災基礎運動と災害時における支援活動に取り組み防災士や防災士の活動に賛同する市民の支援を行なうことにより、地域防災力の向上を図る。

一般市民対象の防災訓練や講習会、見学会を開催し、地域防災力の向上を図っている。また、地域団体との連携ももつづつあり、連携した活動の機会も増えた。今後は、山崎自治会の防災講習会など、地域の防災活動への支援にも積極的に取り組んでいく。
http://www.geocities.jp/bousaisai_setagaya/



下北沢カレー王座決定戦実行委員会

下北沢をカラーで元気にする

10/15〜21までの1週間、43店舗で開催し、カレーは雑誌・テレビにも取り上げられた。「下北沢=カレー」というブランディングに成功した。店舗同士の交流のきっかけともなり、カレー屋とパブのコラボの「カレーパブ」を併設する計画も行われている。
<http://love-shimokitazawa.jp/curry2012/>



下北沢発：シンデレラ・プロジェクト

被災地支援によって下北沢の集客力向上を図る

下北沢のお店から被災地の子どもたちへ輪を繋げる活動として、本年は真城島川村町の漁師さんへ直接購入したイカ1000斤を譲渡し提供する。下北沢のイカ祭り、3月10日は子育て支援商店街と共催し、復興への応援として下北沢の活性化に貢献したい。
<http://cinderellaaproject.jp/>



からずやま地域の力を集める会

おそくからワークショップの集まる地域復興支援センター(まちの課題発見と解決に向けたネットワークづくり)

自転車、福祉、防災支援、まちの様々な課題を共有し、人と人のネットワークを結ぶために、誰でも参加できる「おそくからワークショップ」を開催。今年は復興財団を想定して「出来ること」「聞けること」など準備が6らう。また、防災についての情報提供を行う。



街づくりの仲間たち

区の計画づくりに関わり、区民による提案づくりをめざす

副都心歴史地区がネクスト20〜もう一つの世田谷を構える。決定の二つのプロジェクトチームを立ち上げ、区民参加型ワークショップを実施。参加者から集まった提案について、各提案実行が世田谷ビジョンを整理した。今後、住民参加の場づくりの機会を広げていきたい。
<http://machi-nakama.jimdo.com/>



子ども

スマイルプラネット

こどもたちを笑顔にする「スマイルプラネット」

キッズアート(工作やお絵かきなどアートプログラム)や被災地支援活動を通して、こどもたちを笑顔にする心がけに取り組んでいます。今後は、活動キッズチーム(子育てと農)と連携し、アートと食の学びを通じて、地域コミュニティの輪を広げていく。
<http://d.hatena.ne.jp/smilep/>



アルファキッズクラブ

地域への関心を育む子育て支援活動

リズムックと食育を中心に活動を始め、昨年からは始めた「親子おそく作り」は、スライムや布地を巻きつけたリズミックが人気で、工作に夢中になり持ちが過ぎたことからも好評を得た。「地域へ交流しながら毎週遊びに来て、を前回の活動を通じて支え続けている。



子どもでつながるハートくらぶ

共に助け合い、育ち合う子育てのネットワークづくり

清成会と交流の口としての存在により、子育てや発達障害への理解と交流を深めている。活動を通して、活動の専門家や支援団体等とのネットワークも広がりつつある。今年度は子育て支援者養成も視野に入れて取り組むこと、経済的・人間的成長の安定をのめしたい。



どんどこ方ガガ!

絵のある絵に感じるほらちがで創ろう!

どんどこ方ガガ!は、子どもたちが絵の具を混ぜ、新しい絵を描きだして、遊んで絵を描くこと。去年は、子どもたちだけでなく大人も参加して絵を描く「何でガガガ!」も好評で、絵を張ることだけでなく絵の楽しみを共有する場も作りだしていきたい!



千歳小おやじの会

千歳小学校のおやじたちが中心となって、校外学習を通じて、子どもたちの健全な育成と地域活動に対して貢献を行なう

ササキグループ主催イベントを開催する他、地域性団体主催イベントに企画・準備段階から参加し、様々な活動を通じて地域に貢献することを目指している。今年度は、卒業生等と主催者層への参加をより増やすこと、地域貢献を行なう人口を増やすことを目指したい。
<http://ameblo.jp/chitose-no-oyaji>





「人が集まる『場』のひらき方」

それがお店であっても特定の人であっても、ある種の「場」が人を育て、社会をつくる力になるような
ことがありますね。そしていい「場」には、共通した原則があるようにも思います。それは一体…？

東京、西国分寺にある生家を集合住宅へと
建て替える際、1階に「まちに開かれたお座
敷のような場所を作りたいと、カフェ「クルミ
ドコー」を開業したのが2008年10月。
以来4年10ヶ月の営業を通じ、累計13万人
を超えるお客さまにお訪ねいただきました。
そして今感じるのは、「人が集まる」ことの可
能性の大きさです。

人が集まるから、目的が生まれる

近頃、FacebookなどSNSの普及もあって
か、各種イベントの呼びかけが花盛りです。い
わく「まちづくりを考えるワークショップ」、い
わく「NPOに興味ある人集まれ」等々。ただ、
どうでしょう。自分の目的意識をしっかり言語
化できている人はどちらかというと少数派。そ
うでない人にとっては、こうした「目的を示し
て人を集めようとする」イベント呼びかけも、
少し遠い存在に感じられてしまうことはい
までしょう。

元来人には、明確な目的に基づいて行動す
るといふより、行動し人とお客と関わっていく
中、自分の興味あることややってみたいことに
後から気がついていくという面があるように思
います。つまり「人が集まる」目的が生まれ
るのです。ただ気が付くと今、「目的もなく
人が集まる場」は、まちから少しずつ失われ
つつあるようにも感じます。銭湯、赤ちやう
ちん、路上のベンチ、広場等々…。

カフェは、目的もなく人が集まれる、目的も
なく人が居続けられる、貴重な場のひとつで
す（コピー代はかかりますが…）。例えば20
世紀のバビロンも、カフェという場があったら
こそ人が出会い、関わり、触れ合い、その結
果として才能が開かれ、時代が創られてい
た面がありました。実際クルミドコーでも
（バビロンのカフェとは比べるべくもありませんが…）、
この5年間にいるんことが起こりました。
お客さんとの関わり合いの中からクラシッ
クコンサートが始まり、お芝居が上演され、本
がつけられました。お店をきっかけに西国分寺
まで引っ越してきてくださる方もいて、新しい
仕事も立ち上がりつつあります。それもこれも
「人が集まった」というひとつの結果なのです。

「いつも通りに営業する」こと

それではどうすれば「人が集まる」のでし
ょうか。

これはとても大きな問題で、簡単に正解の
出せるようなテーマでもありませんが、それで
もひとつ我々が、自分たちへの戒め的な言葉とし
て常に意識してきたものを紹介させていた
だくとするなら、それは「お店が自由すぎると、
お客さまが不自由になる」ということでした。

「自由な場」をつくらうと思うと、つい運営し
ている側も自由に振る舞おうとしてしま
いますね。お店でいうなら、日によって営業時間
が違ったり、メニューが違ったり、いろんなイ
ベントをやっていたり。ただこのようにお店が
自由であることは、反面、お客さんを不自由にさ
せてしまうということがあると思うのです。行
ってみたいけどやっていたりなかった。内輪な雰囲気
のイベントをやっている居場所がなかった。
等々。つまり自由であって欲しいのはお客さん
側なのであって、お店側はむしろ不自由を受け
止めなければいけないのではないかと
思うのです。ですのでクルミドコーにとって最
も優先順位の高い仕事は、「いつも通りに営
業すること。いつ行っても変わらない、同じ時
間と空間を提供し続けること。前述のようなイ
ベントも、原則定休日や営業時間外に実施し
ています。だからこそお客さんの側に1人が
生まれ、小さな変化に、自分もまわりも気付
けるようになっていくのではないのでしょうか。

「利用する」のではなく、「いかす」こと

一方、まちをつくっていく「場」とは、必ずし
もお店のような具体的なハードを必要とする
ものばかりではないとも考えています。例えば
「人」の存在が、ひとつの場となるようなこと
もきつとあるでしょう。

よく「開かれた」場というような表現をする
ことがありますが、これはどういう意味なの
でしょうか。もちろん「いろんな人が出入り
できる」も、物理的な開放性というところも
ありますが、より重要なのはさまざま「可能
性」に向かって開かれているということだと思
います。

たとえば目的性の強い人ほど、人と出会っ
たとき、その人をどう「利用」できるか考
えてしまいがちではないでしょうか。ただしそ
れで、新しい可能性は開きません。目的への
道のりが多少スピードアップすることはあ
ったとしても、ですね。反対に、出会った相手や、そ
こで生じた関係性を「いかそう」とする人が
います。そうするとそこに新しい目的や可能性
が開きます。そして、その人のまわりではい
つも次々と新しく面白そうなお客さまが立
ち上がってきます。そうなるべく、この人の存在その
ものが、ひとつの「場」をなしているとさ
えるのではないかと私は思うのです。

「<私>はなんのために存在しているのか」
——その疑問に立ち尽くしてしまう前に、何
はともあれ関わってみる。集まりに身を置
いてみる。ときには出会ったくあなたに自分
を預けてみる。そんな関わり合いの中から、答
が見えてくることもきつとあるのではない
でしょうか。そうして関わり合う「場」にあふれた
世田谷の未来に、自分も立ち会いたいと思
っています。



影山 知明

(かげやま ともあき)
クルミドコー代表
ミュージックセラピスト
株式会社創設
ソーシャルベンチャー・パートナー
（SVP）東京 フィアーズ

1973年西国分寺生まれ。愛知縣岡崎市育ち。
大学卒業後、コンサルティング会社 McKinsey &
Company を経て、独立系ベンチャー・キャピタルを共同
創業。経路30年超のファンドを立ち上げ、投資先として
クワーターを共有した事業開発投資家。
2008年、生業誌で掲載。多次元型アジアハウス「マ
ージョ」西国分寺をオープン。「クルミドコー」を
創業。2013年2月に「クルミドコー」で2冊の本を
発刊。
開かれた電音づから、一人一人が「生きる」社会づく
りに取り組む。世田谷まちづくりファンド運営委員。

【お読み中】

「10年後、ともに生きて」
著者：中井和子
（編集：影山知明）
出版社：クルミドコー
価格：2,025円（税込）



編集後記

近年「ボランティア」や「地域おこし」に関心を寄せる若者が
増えています。実際、昨年度に行われたまちづくりイベントで
世田谷のまちの将来を熱く語り、フレッシュな企画でまちづくりの
相談にやってくる若い（若めな？）人たちがたくさんお会いしました。今後も様々な
世代、立場の人たちがつながって、世田谷が住みよくなること
が起ころうと進化し続けることを後押しして
いきたいと思ひます。

■「結んでひらいて」75号 編集・発行



一般財団法人
世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課
〒155-0031 世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階
電話：03-6407-3313 FAX：03-6407-3319

<http://www.setagayatr.jp/>